日大豊山

小川慶人 主将のチーム分析

（2年＝内野手）

投手力を武器に東京制覇へ

「夏を経験した3人の投手がチームの強みです。ピッチャーを中心に守備でリズムを作って、チャンスで確実に得点できる打撃力を身につけていきたいと思います。一体感を武器に東京優勝を狙います」

「We are 日大豊山」

日大豊山のプライドを持って 2000年以来2度目の甲子園へ

2019年夏の東東京ベスト4、2020年夏ベスト8となった日大豊山。コロナ禍を経て、たくましさが増したチームは、「We are 日大豊山」をスローガンに東京制覇、そして2000年以来2度目の甲子園を目指す。

■1・2年生総勢57人の大所帯

頂点がはっきりと見えている。2019年夏はエース瀬崎絢を擁して準々決勝で帝京を破ってベスト4進出。2020年夏はエース小槻悠奈（3年）を軸に戦い、ベスト8進出を果たしている。最近の大会で敗れたチームの多くはシード校や甲子園出場経験校。チームは、その壁を越えれば甲子園に手が届く場所まで到達しているのだ。2017年から指揮を執るOB指揮官の福島直也監督は「まだ何も成し遂げていないし、満足もしていない」と頂点を見据える。チームは、黒川太一部長、金子和樹助監督、内山賢顧問、永吉一成・宮坂健太・水野遥太コーチの指導陣が役割分担、1・2年生総勢57人の大所帯をまとめている。選手の能力は年々高くなっており、高いレベルの野球を実践している。福島監督は「野球は相手がある競技だが、すべては自分たち次第。自分たちが本気になれるかどうかだ」と自立を促す。

■スローガンのもと一つになるチーム

チームスローガンは、「We are 日大豊山」。コーチ陣の帽子やシャツには、「We are 日大豊山」が印字され、選手たちに深く浸透している。「We are 日大豊山」は学校全体でも標榜されている言葉で、野球部でも昨夏から採用。福島監督は「これまでの野球部を築いてくれた方々、現役の選手たち、そしてこれからの日大豊山をつくる生徒、すべてを含めて『We are 日大豊山』。日大豊山の選手としての自覚、プライドを持つことが重要だと考えています」と話す。新チーム主将小川慶人（2年＝内野手）は「選手たちは、いろいろな方々の思いを背負って戦わなければいけない。学校、地域への恩返しのためにも、僕らが一つになることが大切。日大豊山のすべての力を合わせて、東京でNo.1になりたいと思う」と、スローガンを理解する。チームは、このスローガンのもと一つになろうとしている。

■夏を経験した3投手に期待

新チームは、大きなポテンシャルを秘めている。今夏の主力だった小川主将、主砲・飯島渉太（2年＝内野手）に加えて、右サイドスローの足立丈（2年）、最速142キロ左腕・玉井皓一朗（2年）、140キロ超の本格派右腕・荒木慈安（2年）の2年生・3投手が夏の大舞台を経験し、ひと回り成長した。日大豊山「3本の矢」が機能すれば、東京制覇も夢ではない。夏の4回戦堀越戦で登板しピンチを回避した足立は「夏の経験を新チームにつなげたい。投手陣全体で失点を抑えて、守備から流れを引き寄せていく」と、マウンドへ向かう。打線は、義金大空（2年＝外野手）、主砲・飯島、井原亮介（2年＝外野手）を中心に、磨きをかけている。2019年夏のベスト4を見て入部してきた1年生もレギュラーを虎視眈々と狙い、秋季都大会を前にチーム内競争は熾烈となっている。「We are 日大豊山」。チームは2000年以来2度目の甲子園へ突き進む。

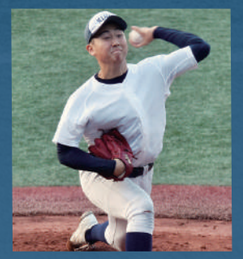
フォーム改造で飛距離アップ

飯島渉太（2年＝内野手）

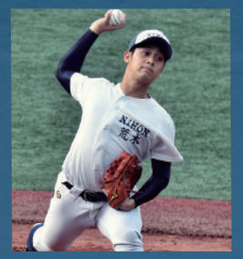
秋予選前の1カ月で6本のホームランを打ち込んだ日大豊山の主砲。「ヘッドの出し方を変えたことで飛距離が出るようになった」。秋季大会では神宮のスタンドへ打球を打ち込む。

日大豊山 「3本の矢」

足立丈（2年＝右サイド）
右サイドから威力ある直球を投げ込む。今夏も経験しレベルアップ



玉井皓一朗（2年＝左腕）
最速142キロのストレートが武器の本格派左腕。都屈指の好投手



荒木慈安（2年＝右腕）
鋭い腕の振りから140キロ超の直球とキレある変化球を投げ込む成長株

日大豊山・福島直也監督

選手が育つための環境づくり

「2019年ベスト4、2020年ベスト8に入ることができましたが、まだ何も残せていないと考えています。私たち指導者の役割は、選手が育つための環境をつくること。心身ともに成長する場を用意することが、甲子園につながっていくと考えています。敗戦の言い訳ではなく、勝つために何が必要かと考えることができる選手を育てていきたいと思います」

1985年生まれ。日大豊山―日大。大学卒業後、日大豊山で5年間コーチ。その後、日大豊山中の部長・監督を務めて2017年春から母校監督に就任。2019年夏東東京ベスト4、2020年夏東東京ベスト8。

日大豊山高校

【住所】東京都文京区大塚5−40−10　【創立】1903年　【甲子園歴】1回（夏1回）
明治36年創立の「豊山中学」が前身。日大付属唯一の男子校。最寄り駅は、東京メトロ有楽町線「護国寺駅」。野球部は2000年に夏甲子園初出場。2019年夏東東京ベスト4、2020年夏東東京ベスト8。OBに桑原義行（元横浜）。野球部は、中大総合グラウンドで練習。